自らの苦い経験をもとに元ホテル総支配人がつくった
《ノロウイルスによる集団感染（二次感染）防止マニュアル》

１．はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ｐ２
２．集団感染が発生しやすい環境・・・・・・・・ Ｐ３
３．集団感染（二次感染）防止方法の現状・・・ Ｐ３
４．ノロウイルスの感染経路・・・・・・・・・・ Ｐ４
５．ノロウイルスに関する基礎知識・・・・・・ Ｐ５
６．吐物（糞便）の処理マニュアル・・・・・・ Ｐ６（重要ページ）
７．最後に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ｐ７

こうすればノロウイルスによる集団感染（二次感染）は完璧に防げる

１．はじめに

はじめまして。益田一と申します。

私は 30 年以上、ホテルマン一筋に歩んできました。

さて、何故、老人ホームや介護福祉施設、保育園、幼稚園、ホテル等で、ノロウイルスによる集団感染が起こっているのでしょうか？

2006 年 1 月、私が総支配人をしていたシティホテルで、同一宴会場を使用した宴会客の中からノロウイルスによる集団感染を 6 日間連続で発生させてしまい、感染源や感染経路が不明のまま、保健所により食中毒と断定されました。

保健所からは 5 日間の宴会厨房の使用禁止という処分を受けたのですが、私は感染源、感染経路が不明のまま、ホテルの営業を続けていれば、さらなる被害者が発生すると思い、お客さまの生命と健康を守るために、ホテル全館（宿泊・宴会・レストラン）の営業を 1 ヶ月間休止する決断をしました。

保健所からは食中毒と断定されましたが、すべての食材、検食（宴会に出したメニューと同じ保存していた食材）や厨房からノロウイルスが検出されなかったこと、調理人の検便からノロウイルスが検出されなかったこと、すべて同一宴会場を使用されたお客さまの中から発症していること、提供した料理が洋食の時も和食の時も発症していること、食事をしていない人も発症していること、その宴会場に出入りしたホテル従業員も発症していること、各宴会場のじゅうたんに掃除機をかけ、その埃を調べたところ、当該宴会場で採取した埃の中からノロウイルスが検出され、その他の宴会場で採取した埃の中からは検出されなかったこと、当該宴会場専用の空調機のフィルターからノロウイルスが検出されたこと等から、食中毒と断定されたことにどうしても納得できませんでした。

そこで独自に調査し、研究し、文献を調べ、一連の事故は食中毒ではなく、嘔吐の処理を完全にできていなかったことが原因による集団感染（二次感染）であることがわかりました。そして、集団感染（二次感染）が発生するメカニズムがわかりました。

それは嘔吐の処理が完全でなく、嘔吐跡（じゅうたんの場合は特に）からノロウイルスが空中に漂い、それを吸い込むことによって二次感染をするということです。

逆に言えば、嘔吐物を完全に処理して、嘔吐した場所に残っているノロウイルスを死滅させれば、集団感染（二次感染）は防げるということです。

その嘔吐物の完全な処理方法と消毒方法を苦い経験と独自の調査により見つけることができました。

それは塩素系消毒薬を使った消毒と熱湯消毒です。どちらも簡単で費用がかかりません。

私の提案するこの方法で嘔吐物の処理と消毒を行えば、集団感染（二次感染）を完全に防ぐことができます。

いちばん大事なのは、①嘔吐を見逃さないこと、②ノロウイルスが死滅するまで完全に消毒することです。その方法を次に記しておきます。実際に、ある施設はこのマニュアルを採用して効果をあげています。

嘔吐物の処理の仕方や消毒の仕方は、嘔吐した場所によって違います。嘔吐した場所がじゅうたんの場合は？カーペットの場合は？ベッドの場合は？こんな場合、どのように処理すればいいのか？など、私の経験をもとに具体的に詳しくお話しさせていただきます。

私はホテルの営業休止により会社に数億円の損害を与えてしまいました。

ノロウイルスによる健康被害を発生させてしまうと、その施設は社会的信用を失ってしまうだけでなく、莫大な金銭的被害にあう場合もあります。

皆さまには私のような苦い経験をしてほしくないのです。私の提案する嘔吐物の処理方法、消毒方法を実行していただいて、ノロウイルスによる集団感染（二次感染）を防いでください。そして、利用者（入所者）の生命と健康を守ってあげてください。

２．集団感染が発生しやすい環境

老人ホームや介護福祉施設などでは、ノロウイルスに感染した人の吐物や糞便から、直接感染するケースや、その吐物や糞便を処理する介護人を介して感染するケースが多くみられます。

吐物の処理の点では、保育園、幼稚園や小学校、あるいは家庭内でも同様の可能性があります。

３．集団感染（二次感染）防止方法の現状

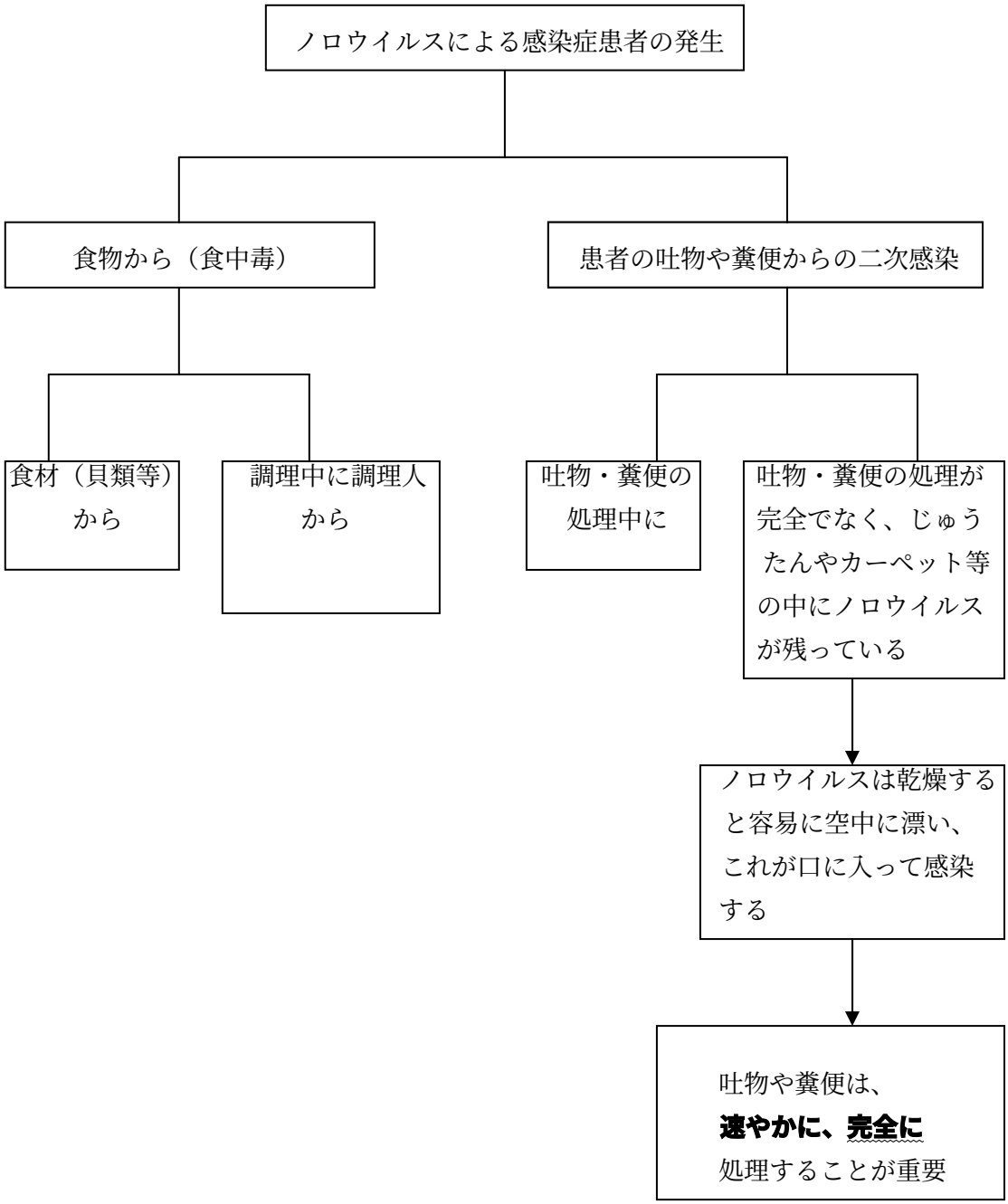
ノロウイルスによる患者を発生させないために、

- 手洗いの励行
- 貝類は加熱して食べる
- 吐物、糞便は速やかに処理する
- 調理器具は熱湯消毒をする

ということは保健所で教えてくれます。

しかし、集団感染（二次感染）を防止する具体的な方法は、誰も教えてくれません。

４.ノロウイルスの感染経路



５．ノロウイルスに関する基礎知識

Q1. **どういう経路で感染し、発症するのか**	A1. 【4.ノロウイルスの感染経路】を参照
Q2. **どういう症状を呈するのか**	A2. 嘔吐、下痢、腹痛、発熱
Q3. **潜伏期間はどのくらいなのか**	A3. 24 時間～48 時間
Q4. **どれくらいの量のウイルスを吸うと発症するのか**	A4. 10 個以上
Q5. **吐物や糞便にどのくらい含まれているのか**	A5. １ｇあたり１億個以上
Q6. **どのくらいの期間、空気中で生きているのか**	A6. 冬期の５℃の大気中で約 30 日
Q7. **人体のどこで増殖するのか**	A7. 小腸
Q8. **他の動物でも増殖するのか**	A8. 増殖しない
Q9. **有効なワクチンあるいは治療薬はあるのか**	A9. ワクチンも治療薬もない
Q10. **人から人へ（インフルエンザのように）直接感染するのか**	A10. 人から人へは直接感染しない 吐物や糞便を介して感染する
Q11. **一回かかると免疫はできるのか**	A11. 免疫はできるが、 有効期間は半年～1 年
Q12. **どんな消毒が有効なのか**	A12. 塩素系消毒薬を使う 加熱する

６．吐物（糞便）の処理マニュアル

① マスク・手袋（使い捨て手袋、ゴム手袋）を着用し、
すぐに　☆ここが重要！

② 吐物に塩素系消毒薬（次亜塩素酸ナトリウム｛**キッチンハイター等を約 50 倍に薄めて使用**｝）をかける。

③ ビニール等をかぶせる。

④ 吐物をビニール袋に入れ、密封する。

⑤ **吐物のあった場所の処理　☆ここが最も重要！**
吐物を処理したら、吐物のあった場所に、塩素系消毒薬をかけ、２０～３０分後に、熱湯を大量にかける。ノロウイルスは塩素系の消毒薬に弱い。
熱に弱い。（８５℃、１分間で死滅）

⑥ 念のため、その後、嘔吐した場所が、
・じゅうたんの場合は、スチームクリーナーをかける。
・タイルカーペットの場合は、その部分のカーペットをかえる。
・大理石、タイル、プラスチックタイルの場合は、デッキブラシ等でこすり、水でよく洗い流す。

⑦ 処理した時に使用したマスク、手袋、雑巾などは、ビニール袋に入れて、密封のうえ捨てる。デッキブラシ、モップ等は消毒して、よく水洗いする。

⑧ その他　**☆ここが重要！**
一番大切なのは、（老人ホームの場合、入所者が）嘔吐したことを、職員が発見することです。嘔吐した人は、他人に迷惑をかけたくないとの思いや、恥ずかしい思いをするのが嫌だから、あるいは少量の嘔吐だからといって自分で処理してしまうことがあります。

そのようなことがないように、入所者には、少量でも嘔吐したら、すぐに職員に知らせるように常日頃から徹底しておくことが大切です。

職員は、入所者が嘔吐したのを見逃さないように、常に施設全体に目を配る必要があります。施設側（職員）が嘔吐したのを見逃してしまうと、集団感染は防げません。

また、塩素系消毒薬、ビニール袋、マスク、手袋、雑巾を常備しておきましょう。

７．最後に

ノロウイルスによる集団感染（二次感染）を防ぐ方法は、先に述べたとおりです。なかでも、６．吐物（糞便）の処理マニュアル**【⑤吐物のあった場所の処理】が、集団感染（二次感染）を防止する要となります。**このマニュアルを参考に徹底した処理をしてください。

ノロウイルスによる集団感染（二次感染）を発生させたくないと思っている施設の方はぜひご連絡ください。『**こうすればノロウイルスによる集団感染（二次感染）は完璧に防げる**』と題して講演いたします。どこへでも出かけて、私の貴重な苦い経験から得た集団感染（二次感染）を防ぐ方法を詳しく具体的にわかりやすくお話しします。

お問い合わせは
アルファ リレーション　TEL&FAX:06-6730-1428　e-mail:info@a-relation.com

ブログ【ノロウイルスによる集団感染を防ぐ方法】
マニュアルをＰＤＦファイルでダウンロードできます
http://blog.livedoor.jp/norouils/

2006 ©アルファ リレーション